週刊
勤勞タイムス

毎週日曜日發行
定價 月二十五円 一ヶ年二百五十円
廣告 一行五十円 場所指定二十圓增
福島縣平市南町六七 印刷所 昭和印刷所
福島縣平市大町八番地 編輯發行印刷人 木村安次

平市五丁目
(久)釜屋商店
電話九番九九番九九九番

場市公丸

第二新不正事實 暴露さる

躍り出したクサレスルメ

復雜奇怪な疑惑に次ぐ疑惑を生んで其の成り行きを注目される平市大工町磐城海産物市場長伊藤彌平專務一派にからむ列車小荷物押收物資取り扱ひに關する不正事件は其の後平檢察廳宮後上席檢事直々の取り調べ中と聞くが又ぞろ大量五百貫余に及ぶ押收物資の横流し問題をコツソリ「セシメタ」闇札束四五百萬兩？と共に地下深く埋沒隱匿して「お釋迦樣でも氣が何くメイ」と御本人は今尚ほ恬然と空嘯いて居ると聞く

一キロ、二キロは叩き切る

摘發時に於ける食糧公團あたりはキロ以下のカツトが天下御免であつたと聞くが海産物もその傳でデツカイ押收の場合等、一キロ二キロは拔け目なく叩き切られこの叩き切つて蓄積された五百貫に及ぶ火事ドロ物資の處分は伊藤專務とその一派張場關係人によつてコツソリ闇から闇へならぬ雜踏混雜の驛辨箱の中へクラ返へして「イエーノシイカはイカガー」と白晝公然と賣り飛ばされて居たと云ふからブチタマゲタものである

驛と驛辨屋との相酷

去る七月、キナくさいウダルような酷暑の中を汗だくでふれ歩いてゐる驛辨君と問題のノシイカを仲に「ブハ〳〵」息まいて居る乘客との一問珍答を紹介する。客「キミーカビの生いたクサレノシイカを賣り付けるとはケシカランぢやないか驛辨「コイツは失禮、實は天眼通ぢやないこのアツシにはパラフイン紙の中迄は解り兼ねましたんでヘエ…客「然もこの割れ目の中はカビて居ないところを見ると已にノス前にカビて居たクサレスルメぢやないか」驛辨「ナール程旦那はお眼がきくノシた後にカビたものなら割れ目の中もカビて居る筈だ」

こいつが驛員に發見されこのクサレスルメを仲に驛と驛辨屋との凄まじいいがみ合ひを展開したとはいやはやどうも愉快な話しではある。

不當利益 十四五万兩

伊藤氏この暑熱に蒸された異臭フンプンたるクサレスルメを市内大町某加工店に依頼すると共に驛辨屋と結託、またゝく間に十四、五萬をヌレ手で粟とカスメたとは凄まじいものではあるまいか、又この不正物資は二月—四月末日迄のホンの一部であると見られ、昨年八月のスルメ一千貫事件に次ぐ不正事實である。

(TE生)

『天鼓、毒鼓』短歌大會

去る八月十一日平市公會堂日本間に於て開催されたいわき民報社後援の短歌大會に臨席した、この日郡下の歌人集ること無慮四十余名新妻久滿夫先生司會の下に夏雜詠四十五に對する、各自の採点が初まつた。私の如き歌道については、極めて幼稚な取るに足らない存在であるが、元とつた杵つかのほこりを拂ふと云ふ程度の心境に於て臨んで見たまでのことである。

歌に生きる四十名の歌人の集つた日本間の雰圍氣と云ふものは、まことに麗かで美妙なものが漲つてゐた。私は進められたお茶を喫しながらゆつくりくつろいで多數の歌人の中に、じつくりとひたり、さも一人前のやうな構へだけは忘れずに出された歌を味つて見たのである、それは極めて豊かな崇高なわれながら天人の境寓に遊ぶの思ひであつた法華經に「遊樂する」と云詞がある。これは單なる遊びとは異ふ、眞に悟りの境に到達し信の世界に安住して宇宙の實相の中に生きた人が自らに得られる悦び、それが即ち法華經の遊樂である、あだかも其の佛の遊樂にも似たものを私はこの短歌大會の雰圍氣の中で歌を味ふ心の中に知つたのである。

(蓮田)

公務員法改惡 反對斗爭は當然

ゲニエラーロフ氏言明

去る十四日民主々義擁護同盟代表約四十名はソ同盟代表部を訪問對日理事會ソ同盟代表テレヴイヤンコ中將並にゲニエラーロフ政治顧問と會見、公務員法改訂に關する日本政府の措置につき關係當局に嚴重抗議方を手配されたしとの陳情書を手交した、キスレンコ中將に代つて應接したゲニエラーロフ政治顧問はこれに對し大要左の談話を發表した「ソ同盟代表は連合諸國が共同で決定した一切の決議の履行の爲斷固たる態度をとつて來たが今後もあらゆる努力を拂ふであらう。日本の勞働者の斗爭はあらゆる民主々義國ことにソ同盟で深い同情をよんでいる今回の公務員の爭議は連合國の占領的を阻害するものでない。

九月上旬出炭 九四・三%

平石炭局管内九月上旬の出炭實績は八萬七千三百五十七トンで東部地方の目標九萬二千五百噸に對し九四、三%の遂行率を示している

投稿歡迎
平市大町八 勤勞タイムス社

内科 泌尿器科 皮膚科 理學診療科
平市南町T107
松村醫院

平市大町
永山クリーニング店

號四百第　題改　日二十月九年三十二和昭　スムイタ勞勤　可認物便郵種三第（二）

民衆の封建的心理に乘ずる
殺人的醫師

【小名濱支局發】人權擁護の叫びが世を擧げて高い折柄利純主義に追はれ時としては自己の感情で患者の生命を左右することも平氣でありかせておけば大丈夫引受昔より醫は仁術なりと言はれて來ているがその正反對を行く醫師が又自己の感情問題にて死すことなき患者を死に至らしめたと言ふ事件が記者の探訪によつて明白にされた、問題の醫師は小名濱本町通黑澤廣氏産婦人科であり、往々小名濱町古港九一伊藤清次郎氏妻ユキ(三三)さんが腹痛を起し掛り付の黑澤氏に掛つたところ醫師は之に子宮のさがつたものと診斷、二三日後ラツパカン破烈と云ひ患者が餘り下腹をおさへて苦しむので或ひは盲腸炎ではないつて來た、黑澤氏は「冗談か？前記清次郎氏弟が心配の餘り泉村佐藤博士に見せ翌日又友人たる林町議が見舞として平市難波博士に見した處兩博士同じく之は盲腸炎の手遲れで今切開したら死亡するから冷じて固める樣との堅き言渡しがあり同清次郎氏は手術前主治醫と思つたが伊藤さんが心配に四人の子を殘され、清次郎氏は語る。

私は妻の死後黑澤氏に御禮に上り黑澤氏に感情のおもむく儘兩博士の診斷を切願した處感情家たる氏は最初から手つけた醫師でよしたる時貴方は大丈夫だと手術責任者がとまつて來よしたがその責任はとれまうと思つた……なんてと涙はを流し口惜しがつた、猶同すかと云つた處金でも返し醫師は平よりかへり容体をて呉れと云ふのか！等々暴から安心して居て呉れと兩見すぐ藥局に行き誰にでも言を吐き同情のかけようもありませんでした、出來るたそうですが私はラツパかんから來た化膿と信じ進みました、どちらが正しいかは解剖に附せば譯ると思ひます。輸血に對して斷らなかつたと云ふが醫者として緊急處置を取つた心算です輸血は血性等使用しません平出張の件は本人には云ひませんがペニシリンを取りに行きました。手術用患者の爲に

黑澤氏談

私は毎日二回位いつて居り私は誠意を盡したつもりです、手術前清次郎氏の切願をきいて居りましたが素人處から言へば手術と云へば大げさに考へますが私は腹膜炎の化膿としドーグラス氏窩に排膿孔しだけです。兩博士が盲腸炎の化膿と見

食糧配給所員に要望
（投稿）

食糧公園城山配給所勤務中の不親切人物、久保木と言ふ配給係の言葉、平支部公園の皆々樣にきいてもらへませう、あの久保木と言ふ人は只で働いてゐるのでせうか、あの樣な人物を使用する上役の人達の氣が知れない、今の世の中の御婦人方が夫のため子のためと配給の無い時を心を一杯に氣勞をしてゐる所へ配給と聽けば心喜しくとんで行く、そして何にかにつけて聽けば石に石でもあてる樣な言葉、それでは久保木と言ふ人物が月給をもらつてゐて有難みをしらない人だ、それよりも困つてゐる人を使用して見ればお客樣に親切と思ひます、どうにかして下さい公園の上役の方にお願ひ申上げます。（平市舊城跡一婦人）

平の映畫

二十一日より
「ぜつたい愛して」
明るく樂しい歌謠映畫
池部良
日立澄子
世界館

二十一日ヨリ三日間
「女醫絹代先生」
三門博の浪曲映畫は二十四至三十六まで上映さる事になつております
平館

二十一日より
「天の夕顏」
ほのかな夕暮れの光の中にはじめて頬を觸れ合つた日それも今は遠い昔の記憶となつた
主演 髙峰三枝子 藤川豊彥
平東寶

21日より上映
「ミネシタの娘」
ミネシタの農家の娘都へ行く……名舞台劇
ロレシ、タヤング
ジョセフ、コシトン
H.Cポシター監督
R.K.O映畫
聚樂館

東京名題大歌舞伎
森田座
市川三滿壽一行
九月二十日 二十一日兩日
三夜劇場

安いから賣れる
いづみやの
ライターとケース
いづみや
平驛前 電348番